

## 【平成 28 年度大台ヶ原自然再生事業 検討状況の概要】

ワーキンググループ名称	実施日	主な議題	主な検討結果のポイント
森林生態系・ニホンジカ管理 ワーキンググループ	緊急 H28.6.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くくりわなで捕獲したニホンジカがツキノワグマに捕食されたことに関する今後の対応について</li> <li>・捕獲再開について</li> <li>・捕獲にあたっての安全の確保について</li> <li>・錯誤捕獲が発生した際の対応について</li> </ul>	<p>○これまでのニホンジカ捕獲状況を踏まえ、次年度以降の実施計画を検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度では、くくり罠に保定されていたニホンジカがツキノワグマに捕食されることが発生した。公園利用者及び捕獲作業者の安全のため、これ以上ツキノワグマを誘引しないようにニホンジカの捕獲を一時中止した。</li> <li>・捕獲したニホンジカをツキノワグマに捕食されないため、またツキノワグマを錯誤捕獲しないためのマニュアルを作成し、平成 28 年度のニホンジカ捕獲を再開した。</li> <li>・以上の結果、平成 28 年度の捕獲数は 55 頭であり、目標捕獲頭数である 119 頭を大幅に下回った。</li> <li>・次年度においては、マニュアルに従いツキノワグマの捕食や錯誤捕獲が発生しないように努め、次年度目標頭数である 113 頭を目標に捕獲する。</li> </ul> <p>○大台ヶ原ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画(第4期)を策定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大台ヶ原周辺でニホンジカの生息密度は、平成 13 年度には 35.8 頭/km<sup>2</sup>であったが、平成 28 年度は 5.9 頭/km<sup>2</sup>となった。</li> <li>・大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣管理計画(第4期)では、計画区域内の生息状況及び植生への影響に関するモニタリング調査を行うとともに、ニホンジカの個体数調整の適切な実施により、速やかな低密度化を図り、目標生息密度を 5 頭/km<sup>2</sup>とした。</li> </ul>
	第 1 回 H28.11.22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度 WG・委員会等の進め方について</li> <li>・今年度調査結果について</li> <li>・第 4 期計画における新たな考え方について</li> <li>・第 3 期計画の評価について</li> <li>・過去 5 年間におけるニホンジカ捕獲の評価</li> <li>・第 3 期計画までの現状と評価</li> </ul>	
	第 2 回 H28.12.19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大台ヶ原ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画(第4期)について</li> <li>・平成 29 年度ニホンジカ個体数調整について</li> </ul>	
	第 3 回 H29.1.24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大台ヶ原ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画(第4期)について</li> <li>・平成 29(2017)年度ニホンジカ個体数調整計画について</li> <li>・平成 28 年度ニホンジカ個体数調整について</li> </ul>	
生物多様性(種多様性・相互 関係)ワーキンググループ	第 1 回 H28.9.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニホンジカ個体数調整に係るツキノワグマ対策について</li> <li>・訪花昆虫調査結果について(速報)</li> <li>・地表性甲虫類調査について</li> </ul>	<p>○森林生態系・ニホンジカ保護管理ワーキンググループで検討した、ニホンジカ個体数調整に伴うツキノワグマの錯誤捕獲等を防ぐための捕獲手法の変更内容及び錯誤捕獲が発生した際の対応等についての結果の共有を行った。</p> <p>○自然再生事業の実施効果(生物多様性の回復)を把握するため、指標となり得る生物を調査し分析。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪花昆虫については、各調査時期毎の開花量調査結果及び時期別確認昆虫相について分析、コウチュウ目、ハエ目が多く、大台ヶ原ではハチ目がかかなり少ないことが判明した。類似している他地域との比較でもハチ目が少ないことが判明した。考えられる要因としては、ニホンジカにより下層植生が衰退し、草本植物を好んで訪花するハバチ類が減少し、シカの影響を受けていない木本植物を好んで訪花するコウチュウ類はそれほど影響を受けていないものと考えられた。</li> <li>・コマドリ-スズタケ調査については、今年度より「大台ヶ原コマドリ調査隊」により、調査を開始した。現時点でコマドリの確認数が少ないため、スズタケとの相関関係を評価できる段階ではないが、防鹿柵内などスズタケの稈高が回復した箇所での確認もあり、次年度も調査を継続する。</li> <li>・オサムシの総捕獲種類数は 25 種(新規 2 種)、総捕獲頭数は 458 頭となり、過去最も少ない捕獲となった。出現数の種組成は柵内、外でのクラスターは二分されなかった。出現種は一部の調査区で特異的に出現するあるいは出現しないものもあり、林床環境(土壌水分、開空度等)等により棲み分けを行っている可能性がある。</li> </ul> <p>○大台ヶ原の主要な下層植生であるササ類(ミヤコザサ、スズタケ)及びコケ類の分布状況を調査し過去データと比較することにより、下層植生の変化を把握するために、メッシュ調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミヤコザサについては、平成 24 年から大きな変化は見られないが、正木峠の南側では被度が高くなっている。</li> <li>・スズタケについては、平成 24 年から被度は回復傾向にある。特に東大台では薄いながらも被度が確認されるメッシュが増えており、ニホンジカの生息密度が低下した効果と考えられる。</li> </ul>
	第 2 回 H29.2.13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪花昆虫調査結果について</li> <li>・メッシュ調査結果について</li> <li>・ハバチ類調査について</li> <li>・今後のモニタリングについて</li> </ul>	

ワーキンググループ名称	実施日	主な議題	主な検討結果のポイント
持続可能な利用(ワイズユース)ワーキンググループ	第1回 H28.8.4	大台ヶ原登録ガイド制度について ・検討スケジュールについて ・ガイド制度の骨子と実施要綱の関係について ・講習会について	○より安全でかつより質の高い自然体験の提供の一つの手段として位置付けられている大台ヶ原ガイド制度については、長年検討を重ね、平成27年度にその骨子を取りまとめたところ。 ・平成28年度は、大台ヶ原の利用に関する協議会の部会と利用WGの合同検討会において、骨子に基づき、実施要綱、運営細則等について検討し、最終案を取りまとめた。 ・最終案を大台ヶ原の利用に関する協議会に図り、構成機関の合意を得て確定した。 ・当ガイド制度は、「大台ヶ原登録ガイド制度」として、平成29年度から運用を開始する予定  ○利用者から要望の多い東大台でのトイレの設置について検討 ・平成27年度は、携帯トイレブースの設置を試行。利用者の評判は概ね良好で問題は特に発生せず。 ・平成28年度は、より実際に近い状態で再度試行しデータを収集した。
	第2回 H28.10.7	大台ヶ原登録ガイド制度について ・実施要綱等について ・講習会について ・ガイドテキストについて	
	第3回 H29.1.31	大台ヶ原登録ガイド制度について ・実施要綱等について ・講習会について ・ガイドテキストについて	